



群馬県立がんセンターだより

第22号

発行 平成24年10月 群馬県立がんセンター

理念

私たちは、患者さんの意思を尊重するとともに地域と連携し、高度のがん医療を提供します。

基本方針

1. 患者さんの権利と意思を尊重します。
2. 地域と連携し、適切ながん医療を提供します。
3. 教育と研修を充実し、優れた医療人を育成します。

地域の皆様から 頼っていただけるがんセンターに

がん対策基本法が施行され、がん医療を取り巻く環境は様々に変化しています。県でもがん対策推進計画が策定され、医療政策から改革が進んでいます。がん登録やドラッグラグの解消、早期からの緩和ケア、など新聞やテレビでお聴きになった方も多いのではないかと思います。しかし、人は自分や家族が病気になって体験しないと、なかなかこうしたことを実感することはできません。ましてや以前と比較して変化を実感できるという方は極めて少ないことでしょう。つまり、それは改善を評価することの難しさにつながります。

患者さんの満足度調査というのがあります。でも、がんになって満足する方はおられないでしょう。個人的には納得度調査がよいのではないかと考えています。がんになって初めてがんという病気を自分や家族のことと捉え、医師からの説明があり、自らも勉強し、医療者と一緒に、自分の病気の治療や療養について考え、納得の行く治療を受けていただくことが、がん医療を担う病院の使命と考えます。



副院長 鹿沼達也

がんは言うまでもなく身近な病気です。健康を誇る方にもそうでない方にも突然ふりかかる災難かもしれません。絶望、怒り、諦め、様々な不安が突然押し寄せて来るのです。萎縮医療、モンスターペイシェント、医療難民、医療訴訟、などなど、一般の方（患者さん）からみれば医療は安全ではなく、病院（医師）は患者に冷たいという思い込みは、双方ともに不幸な関係しかもたらしません。患者さんを家族とともに支え、励まし、最良の治療を受けていただけるような病院があって欲しいと思います。

医師不足からいったん閉じさせていただいた婦人科診療を再開し、3年半が経過しました。地域の皆様にはどう評価していただいているのでしょうか。いうまでもなく病院では様々な職種の方が仕事をされています。患者さんや家族を支えてくれる人は一人でも多い方がよいと思いませんか。がんセンターを訪れた方にそう感じていただけることこそ、病院の誇りと考えます。個人の意識の変化とシステムの変化は、どちらが先というものではないようです。患者さん、ご家族、ご紹介いただく医療機関、行政とも意志を同じくできれば、このセンターは地域の皆様から頼られるがんセンターになると考えます。そしてそれが、ここで働く人のやりがいとなり、人が集まる病院に繋がるのではないかと考えています。医療には限界があります。提供できるサービスにも制約があります。しかし、すべてのサービスは患者さんのためにと考えれば、変わることはあるはずです。

がん遺伝カウンセリング外来について

患者さんと話していて、「うちはがん家系かねえ？」と質問されることがあります。がんの原因には、タバコやアスベストなどだけではなく、「遺伝的要因」もあります。遺伝的要因を強く受けて発生する腫瘍を遺伝性腫瘍とか家族性腫瘍と言います。

良く知られた遺伝性腫瘍として、家族性大腸ポリポージス、多発型内分泌腫瘍1型・2型、リー・フラウメニ症候群、網膜芽細胞腫などがありますが、高率に乳がん・卵巣がんを発症する遺伝性乳がん・卵巣がん症候群は比較的患者さんの数が多い疾患の一つです。

遺伝性乳がん・卵巣がん症候群は、全乳がん患者さんの5%ほどと言われており、その原因は、BRCA1、BRCA2という1対のがん抑制遺伝子の一方が生まれつき壊れている（変異）ことによるものです。女性では高率に乳がんや卵巣がんになり、男性でも乳がんのほか、前立腺がんになるリスクが高いといわれています。

米国で始まったBRCA1、BRCA2の遺伝子検査が日本でも行えるようになり、変異の保因者に対しては、頻回の検診や、乳腺や卵巣・卵管の予防的切除が推奨されています。

遺伝性乳がん・卵巣がん症候群の可能性の高い患者さんや家族のカウンセリングを行い、それらの方々の診断と治療を適切に行うことを目指して、がん遺伝カウンセリング外来を開設しました。なお日本では、遺伝子検査を行う場合は、その前後でカウンセリングを行うことが義務づけられています。

がん遺伝カウンセリング外来の内容

現在、乳がんや卵巣がんの遺伝性の問題についての悩みや相談がある方を対象としたカウンセリングを行っています。家族におこるがんに関する悩みや、そのような体質を受け継いでいるかどうかの相談に対応し、遺伝するがんに関する詳しい情報や専門的な情報を提供します。あなたやあなたの血縁の方が乳がんや卵巣がんにかかっている、遺伝性のがんが心配なときは、この『がん遺伝カウンセリング外来』を受診されてみてはいかがでしょうか。遺伝子検査を希望する方は、このカウンセリング後に受けられます。

このような方が対象です

- 50歳以下で乳がんを発症した方
 - 両側の乳がんを発症したり、卵巣がん等の複数のがんを発症した方
 - 発生した乳がんのホルモン受容体が「陰性」かつHER2（ハーツ）も「陰性」である方
 - 遺伝子検査を勧められたが、どのようなものかもっと知りたい方
- ※このような遺伝性のがんである可能性が高く、遺伝に関する詳しい説明が聞きたい方、不安や悩みがあって相談したい方が対象です。

相談を希望される方へ

- 『がん遺伝カウンセリング外来』は、毎週金曜日、13時から行っております。紹介予約制になっておりますので、電話で予約をとり、受診時には紹介状（診療情報提供書）を持参してください。
- がん遺伝カウンセリング外来を受診される場合、通常の初診料、再診料を頂きます。その後、遺伝子検査を受けられる場合は自由診療となり、健康保険は適用されません。
- お手数ですが、血縁者の中で第1度近親者（両親、兄弟姉妹、子）および第2度近親者（祖父母、おじ、おば、めい、おい）に発症したがんの種類と診断された年齢をお調べ頂き、診察の際にお持ちいただくと診療が円滑に進みます。



遺伝相談担当医
乳腺科部長 柳田康弘

部署紹介

放射線課

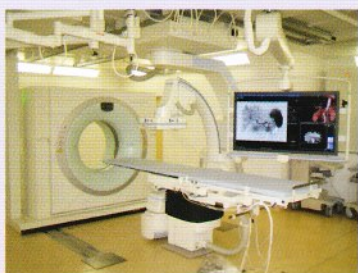
放射線課は、診断部門と治療部門とから構成されており、単純 X 線撮影から放射線治療機器を用いたがん治療まで、放射線に関連した幅広い医療を患者様に提供しています。

●放射線診断課

放射線診断課は、X 線を利用した画像診断機器、磁気を利用した画像診断機器（MRI）を扱う診断部門と、放射性同位元素を用いて画像診断を行う核医学部門とに分かれています。診断部門には、一般撮影・X 線テレビ・乳房撮影・IVR-CT・CT・MRI 装置等を備え、がんの画像診断に必要な画像を診断医に提供しています。IVR-CT 装置では、画像診断のみならず、腫瘍の栄養血管の塞栓・抗がん剤の動注等を行い、頭頸部がん・肝がんの治療も行っています。核医学部門では、ガンマカメラ・PET-CT 装置を備え診断画像を提供しています。特に、核医学で利用している放射性同位元素は、短半減期の核種が多く検査時間の制約を伴うため、患者様や他の医療従事者との協力・連携が必要となっています。

●放射線治療課

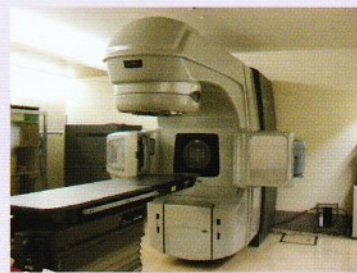
放射線治療課は、放射線治療装置（リニアック）を使用して体の外側から放射線を照射する外部放射線治療を柱とし、放射線を利用した様々な治療を行っています。外部放射線治療の他に、体内に放射線が出る物質（放射線源（ ^{192}Ir 、 ^{125}I ）を入れて子宮頸がんや前立腺がんなどの治療を行う小線源治療、放射性ヨード（ ^{131}I ）を体内に取り込ませ甲状腺がんの治療を行う内服療法、乳がんなどの手術中に患部に放射線を照射する術中照射などを行っています。当課では、治療の直前（または治療中）に X 線撮影をして照射位置の補正を行う画像誘導放射線治療（Image Guided Radiation Therapy：IGRT）が確立され、従来の放射線治療と比較し、より高精度な治療を行っています。



IVR-CT 装置



PET-CT 装置



放射線治療装置（リニアック）

～「感染対策チーム」について～

感染対策チームは、病院内での患者・職員双方の感染の予防を目的として、多くの職種と協力して活動しています。チームのメンバーは、院内感染管理者であるインфекションコントロールドクターと感染対策専従の看護師であるインフェクションコントロールナースを含む、医師・看護師・薬剤師・検査技師・放射線技師・管理栄養士・事務員などで構成されています。

感染対策チームの活動内容は大きく分けて四つあります。

一つ目は、病院職員への知識の提供です。手の洗い方、手袋・ビニールエプロン・マスクなどの着用の仕方、抗菌薬の適正使用など感染防止対策に関する教育を定期的に行っています。また、「院内感染対策マニュアル」を作成して病院で働く人達がいつでも適切な感染対策を確認できるよう整備しています。

二つ目は、感染症発生状況の把握です。抗菌薬が効きにくい細菌の検出状況と中心静脈カテーテルを使用している方の血流感染の調査を行い、感染流行の早期発見と早期対応に努めています。

三つ目は、感染対策の実施状況の評価と改善活動です。現場巡回は週一回感染対策チームが行っています。また、年に一度は外部の医療機関の協力を得て第三者の視点から感染対策の評価を受けて改善活動をしています。

四つ目は、抗菌薬の適正使用の推進です。抗菌薬は使い方によって抗菌薬が効きにくい細菌の出現に関与する危険があります。そのため、ある種の抗菌薬の使用については主治医に加えて感染対策チームも使用方法が適正であるかどうかを確認しています。

感染対策チームは、感染症が治療やケアの妨げとならないように、「感染しない(自分を守る)」「感染を広げない(相手を守る)」を合言葉にして皆様の療養生活のサポートをしていきます。



外来診療のご案内 (外来担当医一覧表)

平成24年10月1日現在

区	分	月	火	水	木	金	
第一外来	内科	消化器	野川 秀之		野川 秀之	山下 哲	
		血液	五十嵐忠彦	五十嵐忠彦 入沢 寛之	村山佳予子	村山佳予子 村田 直哉	五十嵐忠彦
		呼吸器	湊 浩一 (午後/禁煙外来)	湊 浩一		三浦 陽介	
	外科	消化器	福田 敬宏	福田 敬宏	尾嶋 仁 中村 哲之彦 佐野 彰 宗田 真	尾嶋 仁 赤尾 敬彦 深井 康幸 佐野 彰 宗田 真	尾嶋 仁 深井 康幸 宗田 真
		乳腺	柳田 康弘 藤澤 知巳 塚越 律子 宮本 健志	柳田 康弘 藤澤 知巳 塚越 律子 宮本 健志	乳腺科医師 (新来患者のみ)	乳腺科医師 (新来患者のみ)	
		呼吸器			藤田 敦 吉田 勤		藤田 敦
		形成	廣瀬 太郎 奥 美香子				廣瀬 太郎 奥 美香子
						ストマ外来	
第二外来	婦人科	平川 隆史 伊吹 友二	平川 隆史 伊吹 友二			鹿沼 達哉 婦人科医師	
	歯科口腔外科	山根 正之 川俣 綾		山根 正之 川俣 綾		山根 正之 川俣 綾	
	頭頸科	鈴木 政美 岡田 隆平 (午前再診)		鈴木 政美 新國 撰 (午前再診)		鈴木 政美 新國 撰 (午前再診)	
				鈴木 政美 岡田 隆平 (午後新患)		鈴木 政美 岡田 隆平 (午後新患)	
	麻酔科	高橋 利文			猿木 信裕		
	泌尿器科	清水 信明 蓮見 勝	清水 信明 濱野 達也		蓮見 勝(午前) 濱野達也(午前)		清水 信明
泌尿器科医師 (午後、新患のみ)		泌尿器科医師 (午後、新患のみ)				(ストマ外来)	
放射線科	放射線	玉木 義雄 吉田 大作 工藤 滋弘	玉木 義雄 吉田 大作	玉木 義雄 吉田 大作 工藤 滋弘	玉木 義雄 吉田 大作 樋口 啓子	玉木 義雄 吉田 大作 工藤 滋弘	

病院ボランティア募集

当センターでは、ボランティアの温かい手助けにより、患者さんが心の安らぎを得られるような環境づくりができればと考えています。

ボランティア活動に興味をお持ちの方は、ご応募ください。

■活動内容 外来での案内

■活動時間 平日(土・日、祝祭日を除く)の8:30~12:00

■お申し込み・問い合わせ先 総務課(内線4114)



診察予約 (初診、再診ともに予約制です。)

●初診紹介予約制について

当センターは「完全紹介予約制」です。初めて受診される方はあらかじめ電話で診療日時の予約をしていただき、診療当日は必ず主治医の紹介状(診療情報提供書)をお持ちください。また、再来の方も予約制となっておりますので、事前に予約をおとりください。

●がん検診について

当センターでは、がんの検診(一次検診)は行っておりません。市町村の検診や人間ドックをご利用ください。検診で異常を指摘された方の診療は行っております。

予約電話 0276-38-0771

●受付時間: 午前9時から午後5時(休診日を除く)

●電話予約は診察を希望する日の1か月前から前日の午後1時までにお願いたします。

※休診日 土・日曜日、祝日、年末年始

入院者の面会時間 午後0時30分~午後7時30分

群馬県立がんセンター

〒373-8550 太田市高林西町617-1

TEL **0276-38-0771** (代)

FAX 0276-38-0614

URL <http://www.gunma-cc.jp>

